

# 大手電機メーカーのエンジニアから漁師の道へ

よしだ かずひこ

佐世保市相浦漁業協同組合 吉田 和彦さん 49歳

漁業暦1年

## 吉田さんは、刺網や一本釣り漁業を営まれています。

吉田さんは、世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産のひとつであり、教会の島として知られる黒島集落で漁業を営んでいます。以前は神奈川県で大手電機メーカーのエンジニアとして忙しい日々を送っていましたが、数年前に両親が入院したことを機に、里帰りを決意したそうです。前職では、リーダーとして多くの部下と複数のプロジェクトを抱えていたそうですが、漁師は自分ひとりの判断で仕事ができるので、その点は気持ちが楽になったと言われています。当初は、転職に反対していた家族も、今では応援してくれているそうです。漁業の魅力について、吉田さんは、大自然のもと手に職を付けられるところや、自分の頑張り次第で収入を増やすことができるなど挙げられました。会社員時代の同僚に獲れたての魚を送ると、その美味しさに驚かれるそうで、これからもどんどん黒島の魚の美味しさを広めていきたいと語ってくれました。



地図



### 経歴

～22歳

大学卒業後、神奈川県で大手電機メーカーのエンジニアとして活躍。

45歳

電機メーカーを退職。漁業技術習得のため、県の事業(生活費の助成)を活用し、父親のもとで研修開始。

47歳

研修終了後、漁船を購入し、独立一本立ち。

### 吉田さんの一日

吉田さんは、春から秋にケンサキカやアジを対象とした一本釣り、冬にはイセエビやメジナを対象とした刺網漁業を営んでいます。一本釣り、刺網ともに、夕方から明け方までの操業で、夜型の生活パターンに慣れるまで少し時間がかかったそうです。漁場は黒島周辺が中心、遠くても船で2時間程の五島灘で、盆、正月、シケの日以外、年間で240～300日間操業しています。

ケンサキカ釣り漁の様子



年間操業スケジュール

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
イカ釣り				←————→								
一本釣り(マアジ)									←————→			
刺網(イセエビ、メジナ)	←————→											

0:00	イカ釣り 一本釣り 刺網
1:00	操業
2:00	
3:00	帰港
4:00	
5:00	箱立・出荷
6:00	
7:00	自由時間
8:00	
9:00	
10:00	
11:00	(刺網の場合は13:00～17:00まで網補修)
12:00	
13:00	
14:00	
15:00	出港
16:00	
17:00	操業
18:00	
19:00	
20:00	
21:00	
22:00	
23:00	
24:00	

### 余暇の過ごし方等

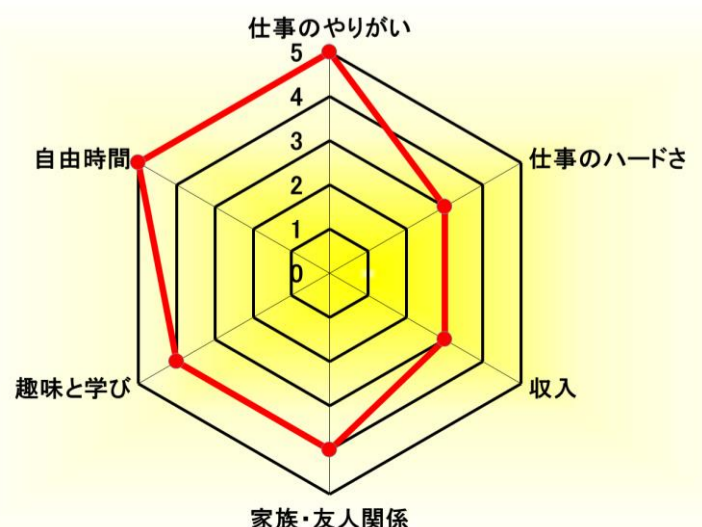


黒島天主堂

漁が休みの日は、イカ釣り用の餌木を補修したり、家でビール等を飲みながらテレビやDVDをゆったりと観賞し、心身ともにリフレッシュしているそうです。

子供の学校の関係で、妻と子供3人(1男2女)を神奈川県に残し、今は吉田さんだけ実家暮らしをしていますが、中学3年生の末っ子が高校を卒業したら、妻が黒島に来てくれることになっているので、その日が来るのを心待ちにしているとのこと。子供たちは関東で就職することになるだろうと予想していますが、大学4年生の長男が、もし、黒島で漁師になりたいと言ってくれば、ぜひ応援したいと笑顔で話してくれました。

### 吉田さんの本音チャート



#### 師匠(父: 吉田幸徳さん)の声

息子が黒島に戻ってきて、4年目になりました。操船や仕事の段取りなど、まだまだのところはありますが、これからもっと勉強して、一人前の漁師になれるよう日々頑張ってもらいたいです。漁業技術の習得に近道はなく、手順を踏んで、回数や工夫が必要だと思います。将来を楽しみにしています。

#### これから漁業を目指す方へ

漁業は自然の影響を受けやすく、とても大変な仕事ですが、その一方で、やりがいも大きいと思います。最近、漁業研修支援制度など行政の補助事業も充実しているので、以前と比べるとハードルは随分と下がっていると思います。漁業を目指す人は、一度、トライしてみてもいいのではないでしょうか。